

学生代表所感

松下華菜

はじめに、今回の世界 10 大学国際学生フォーラムの開催にあたりまして、アメリカのヴァッサー大学・スミス大学・マウントホリヨーク大学、韓国の釜山外国語大学、タイのチェンマイ大学、チェコのプラハ・カレル大学、中国の大連理工大学、ドイツのボン大学、ポーランドのワルシャワ大学から本フォーラムに参加していただいた 17 名の学生のみなさまに心より感謝の意を表したいと思います。

今年でこの国際学生フォーラムも 4 度目の開催となりましたが、今回は「震災復興を超えたグローバルな対話と協力」をテーマに各大学の学生がプレゼンテーションを行い、世界で起こっている震災に対して私たちに何ができるのかという問いに真摯に向き合いました。東日本大震災が起きてから 4 年という月日経ち、震災に対する私たちの記憶が徐々に薄れてきている中で、今回のフォーラムはあの時の大震災がもたらした恐怖、被災地に今も残された問題についてもう一度考え直す大きなきっかけとなりました。日本のような地震大国は世界にあまり多くないため、初めは地震を身近に感じられていなかった学生もいたようですが、多くの学生がこのフォーラムのイベント内で行われた防災館での地震体験や被災者の方々のお話を通して地震をより現実的に私たちに起こり得るものだと考えるようになったと言っており、このフォーラムが実り多きものとなった事を嬉しく思います。

各大学の学生の発表を聞いて、東日本大震災が起こった時に日本は本当に多くの国から様々な支援を受けていた事を改めて実感しました。遠く離れた国の人々も日本で起こった悲痛な出来事に胸を痛め救いの手を差し伸べてくれたことに対して、私たちは感謝し続けることを忘れてはならないと思いました。そして他国で災害が起こった際に私たちが同じように支援をすることこそが、国を超えた人々のつながりやグローバルな共生を生み出すことにつながると感じます。

私は学生代表としてこのフォーラムに参加させていただきましたが、難しい問いに対して真剣に考え積極的に意見を出し合う学生たちから多くの刺激を受けました。自分には持ち得なかった発想や様々な視点からの考えなど、多文化間でのディスカッションだからこそ得られることが多く存在し、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

また、日を経るごとに学生達が互いに心を開き打ち解けていく様子を見て、このフォーラムが全ての参加者にとってかけがえのないものとなったと実感しています。特に最後の閉講式でのみんなの笑顔を見て、私たちの間に国を超えた確かな絆が生まれたと感じました。私はいつまでもこの絆を大切にしていきたいです。

末筆ではございますが、学生達を常に支えてくださった森山先生ならびに森田先生、共

にフォーラムを作り上げてくれたスタッフであるお茶の水女子大学の参加者のみなさん、
そして本フォーラムに携わった全ての人々に心よりお礼を申し上げ、代表挨拶に代えさせて
いただきます。

学生代表所感

張 襦心

学生代表として、今回の国際フォーラムに参加できたことは今まで経験のないことです。経験が足りないとはいえ、フォーラムが最後まで無事に終わったことに対し、文教育学部グローバル文化学環の森山先生、グローバル教育センターの森田先生、ヴァッサー大学、スミス大学、マウント・ホリヨーク大学、釜山外国語大学、チェンマイ大学、プラハ・カレル大学、大連理工大学、ボン大学、ワルシャワ大学の計 17 名の短期留学生の方々と、一緒にフォーラムを行ったお茶の水女子大学の学生たち、また、この間相談に乗ってくださった先生たちと分からないことを教えてくださった学生たちに、心より感謝申し上げます。

大学生として、震災のために一体なにができるのか。フォーラムに参加してから、考えることができました。やはり、フォーラムに参加し、自分の文化的背景や知識を持ち、社会人より自由に発想して議論すること自体は、もう大学生しかできないことではないかと思いました。大学生たちは間もなく社会の力の一部になるので、今まで学んだ知識と持っている価値観は国の未来に繋がっています。今回のフォーラムで学んだことは、決してただ会議に参加して講演会を聞き、自分が発表することだけではないと思います。災害の発生は全て予想できるわけではありません。普段から災害について意識して、どう周りの人に伝え、理解してもらうかを考え、実行するかもフォーラムに参加した方々の責任だと思います。また、フォーラムを通して、まだ社会に入っていない大学生たちに、震災についての想い、防災意識、減災意識を伝えることに限らず、フォーラムで国際交流を促すことも、大切な目的の一つです。

日本人ではないが、短期留学生でもない私は、国際交流を促すためにどうしたらよいかについて、フォーラムに参加する前に悩んでいました。違った文化の中で、母語でない言葉で物事をやる難しさは、自ら体験しないと味わえないでしょう。ですが、この体験はフォーラムで国際交流のために行ったイベントより、本当の異文化交流だと私は思います。

人に接する時、相手の立場で物事を考えることや、相手に対する思いやりと包容力はコミュニケーションを円滑に行うため不可欠なことです。異文化交流に限らず、フォーラムに参加せずに災害地域の人々の本当の思いを勝手に自分の考えで思い込む人は少なくないでしょう。遺伝子が同じ双子さえでも、この世の中に全ての考え方がそっくりな二人はいないはずです。人々の考えはそれぞれ違っているからこそ、いつも広い心で自分と出会った人々に接し、相手のことを素直に聞いて、勝手に判断しないようにすることは異文化交流で一番人々に学ばせたいことではないでしょうか。

今回のフォーラムをきっかけに学んだことや人々と築いた絆を、フォーラムの終わりに伴って終わるのではなく、これから続けていけることを願っております。最後に、フォーラムに参加した方々に改めて深く感謝を申し上げます。

日本側学生所感

人と人の繋がり イベントの裏側で

文教育学部言語文化学科1年 小山 未空

1. 概要

大学生寮に住んでいることもあり、フォーラムへの参加は入寮手続きの手伝いから始まり、防災館への訪問・陸前高田実習報告会・代々木公園での黙祷・フォーラムディスカッション、全てに関わった。分担では私を含めた4人で、海外からの学生と、お茶の水女子大学の学生の間におけるアイスブレイク企画を担当した。

2. 成果

バディとしての役割に最も力を注いだ10日間は毎日が充実していた。食事と行動を共にしたことで、国籍を超えて互いに1人の人間として交流することが出来た。特に食事の際には、お互いが住む国における社会問題に対する意見、私の故郷である北海道の先住民アイヌに関することや、それを題材にしたアメリカの授業、個人的な悩みから宗教まで、多くの意見を交わした。生まれ育った国が違うため、考え方が根本的に違う部分もあり、理解に苦しむこともあったが、そのような場合には、相手を尊重ありのままを受け入れた。このようにして人と人との関わり合うことで、協力してより平和な社会を創っていったら良いな、と思った。フォーラムは震災に関する知識を共有し、防災意識を高めることが目的であったが、私個人としてはそれ以上に実りあるものであった。これらはスタッフとしてフォーラムの企画・実行の裏側に寄り添ったからこそ、体験できたことだと思う。

バディとの意見交換の中で、フォーラムの発表・質疑応答が日本語で行われたことが好評だったようだ。日本人は意識せずに行っていることが、新鮮だったようだ。私のバディが強調していたのは、日本人が先ず初めに「発表をありがとうございます。」と述べてから自分の意見や質問を述べるという形式だ。アメリカではマイクを持ってすぐに、自己主張や批判をするそうで、聴衆は攻撃的だ、とのことだった。その他、東日本大震災の情報を日本人から聞けただけではなく、防災館で実際に体験出来たことが良かったそうだ。ゲストスピーカーの講演は、難しい日本語が多くて言葉の理解に苦しんだ、とのことだが、その雰囲気やオーラから感じるものがあつたそうで、私のバディは個人的に東北に赴いてみたいと語っていた。

3. 課題

スタッフの中で最も大きな人数比を占めていたバディとしての役割について改善点がみられた。海外からの学生ひとりに対して、お茶の水大学の学生ひとりがつく、という構想

であったが、交流が不十分であったペアが多かったように思われる。私から見て、日本人学生のフォーラムへの出席率はそれほど高いものではなかった。それに対して、当然ながら海外からの学生は全日程参加である。私は全日程に参加したが、海外からの学生から、日本人バディとまだ会えていない、理由は分からないが来ない、という言葉を目にした。私のバディは「私にはいつもあなたが付いていてくれるし、同じ寮の同じ階に泊まっているから大丈夫だけれど、その他の人は寂しそう。バディがいないみたいでしょう？」と言っていた。人が相手の仕事なので、なるべく全日程参加可能な人がバディの仕事を担当すると良いのではないかと思った。海外滞在はそれだけでなく不安やトラブルが付き物だと思うので、いつでも頼れる人が傍にいるという精神的安定感を与えてあげることも、バディとしての仕事の一つではないか考える。

フォーラム日程に関しては、海外からの学生に対する配慮が全面に感じられたとの意見だ。一方、ゲストスピーカーを招いての日程では、難解な敬語と単語に加え、終了時間の一時間延長が、精神的・身体的に大きな負担だったそうだ。

2015 国際フォーラムについての感想

文教育学部交換留学生 張 樺心

1. 概要

今回の国際フォーラムでは、様々な国の留学生と交流し、東日本大震災について更に認識ただけでなく、留学生としてお茶の水女子大学の学生達と一緒にイベントを行ったことも、とても貴重な経験となった。

2. 成果

2.1 フォーラムの内容について

今回の国際フォーラムを通し、防災体験をはじめ、陸前高田を例として、三人の当事者方々の講演、国立博物館の文化財再生の特別展、代々木公園での黙祷、10大学の学生発表まで、色々な面から震災について深く認識できた。大学生として、何ができるのか。大学生は社会人ではないが、子どもでもない。大学生は社会人より考えの柔軟性があるほか、子ども時期にはない行動力と情報の伝達力も持っているはずだと考えた。実際、学生発表でボランティアとして災害地域の復興を手伝うことや、コンサートを行うことで希望を伝えること、自身が持っている専門知識を生かした災害時の支援、手伝い、募金や自らの寄付など、沢山の良いアイデアが出てきた。震災は無惨なことだとはいうものの、震災の復興のために、普段日本人と関係のない人々と国境や民族を超え、ある程度の信頼関係が築けたのは、災害がもたらす貴重な宝ではないかと思った。

2.2 参加学生との国際交流について

留学生としてフォーラムに参加することは、色々な国の留学生との交流だけでなく、お茶大の学生との交流として特別な意味がある。違った文化背景の人と一緒にある目標に達するのは、良い刺激であり、良い勉強になった。震災のことを風化しないように人に伝えるだけでなく、国際交流を促すことも、フォーラムの目的の一つである。留学生なので、国際交流は自分にとって初めてではないが、新しい考えや発想が出て、良いことだと思った。

2.3 スタッフとして参加した感想について

実は、学生代表という役割より、短期留学生生活サポーターの言い方が自分の役割にふさわしいと思う。仕事は主に短期留学生の入寮、退寮、生活支援やバディーが来ないときの代わりに交流を行うことだった。初めて主催者としてイベントに参加するうえに、外国

語で文化背景の違った人と一緒に仕事をするのは、簡単ではない挑戦であった。日本の文化と物事のやり方は自分の文化と違っているので、不安感を感じながら、一つ一つ自分の仕事を行った。まだ改善すべきところがあるが、自分にとって今回フォーラムに参加したことは大変貴重な経験であった。

3. 課題

3.1 フォーラムの内容について

フォーラムに参加するといっても、全ての留学生が講演者の伝えたいことを理解するわけではないはずだと思った。例えば、全員ではないが、ある欧米の留学生は日本災害地域の問題の原因を理解できなかった。日本人にとって当たり前のことは欧米人の文化の中に珍しいことかもしれないこのようなことを考えなければ、文化の理解や価値観でギャップが生じる。これから、外国人に日本側が伝えたいことを理解してもらうために、外国人立場で物事を考え、様々な取り組みが必要だと思った。また、良いアイデアがあっても、実行に移さないと意味がない。これからどう行動するべきかは皆の課題である。災害がなくても、普段から防災意識と減災意識を周りの人と未来につながる子供に伝えるのも大事なことである。これこそが震災を風化しないようにするということの本当の意味ではないか。

3.2 参加学生との国際交流について

インターネットや通信ソフトが発達している現代であっても、人間関係の維持は難しいことである。このフォーラムでできたフレンドシップを維持することはこれからの課題である。

3.3 スタッフとして参加しての感想について

今回のフォーラムはまだ改善すべきところがある。例えば日本と外国の習慣の違いかもしれないが、外国人の習慣では白湯を飲むが、日本に滞在中に湯を沸かすことができず、少し困ることになるので、電気ポットを用意しないといけない。他にはパンフレットの中に留学生名簿と学校の地図、アドレスを加えることやイベントを行う前の説明や乗り換え方の説明などに加え、最後退寮するとき、掃除の基準を定めることは今回のフォーラムで考えなかったところである。

3.4 フォーラム自体

今回のフォーラムで様々なことを学んできた。だが、一つのことが気になった。発表会を行う前に、スライドのプリントを皆に配る。毎回足りるように沢山の紙を使ったが、最

後無駄になった紙の量はとてもひどいものであった。どのくらいプリントすべきか毎回違っているが、できるかぎり、環境への負担を減らすことは大事である。

3.5 自身の今後の課題

今回の様々なイベントを通し、防災と減災について意識するようになった。一人の力は限りあるが、自分ができることをどう実際に行動し、周りの人に伝えるのかはこれからの課題である。また、人が自分の経験だけで判断することは普通であるが、危険である。これからは広い心で違った価値観を理解し、受け入れるのも大切なことである。

国を超えた防災意識の共有とその成果

生活科学部人間生活学科2年 石川 文絵

1. 概要

今回の国際学生フォーラムにおいて私はパーティー班のリーダーとしてウェルカムパーティーとフェアウェルパーティーの企画・運営を担当した。パーティーはどちらも立食形式を取り、移動に流動性を持たせることで学生同士の交流を促進することができた。

ウェルカムパーティーでは日本人学生と留学生混合チームを4つ作り、お題の内容をイラストによって伝えるという「伝画ゲーム」を行った。ゲームは多いに盛り上がり親睦を深めるきっかけとなった。

フェアウェルパーティーではフォーラム中の写真をスライドで流しながら、学生リーダーや各大学の留学生より挨拶を頂くことで、フォーラムの成果を共有した。また日本人学生からバディの留学生へメッセージカードを準備して挨拶時に一人ひとり手渡しをする時間を設けたことで学生間での友情を再確認できたように思う。

2. 成果

昨年はオーストラリアのモナシュ大学から国際学生フォーラムに参加し、テレビ電話を通じてプレゼンテーションとディスカッションを行ったが、今年は受け入れ側かつ参加者としてこのフォーラムに関わることができたため、フォーラム全体を通して留学生との親睦も深められ、対話を重ねることで深い議論を行うことができた。

また、各大学によるプレゼンテーションでは、各自の専攻や各国の文化が反映されており、それぞれの強みが活かされている多様性に富んだ内容だった。震災の復興や防災に関して、チャリティやアプリ、ファンディングなど様々なアプローチが提案され、非常に有意義な発表であった。

また、ディスカッションによって、各自の異なる視点が重なることで新たなアイデアも生まれ、問題点が顕在化したりした。今回のようなフォーラムに限ったことではないと思うが、バックグラウンドの違う人々が多く関わることで視野が広がり課題解決の可能性が広がることを実感した。

フォーラム期間では学外イベントも充実していたため、バディの学生はもちろんのこと、バディ以外の留学生とも交流する機会が多く、今まで馴染みのなかった国の事情や文化を学ぶことができ、多文化に触れることができたことも成果の一つとしてあげられるだろう。

3. 課題

今回のフォーラムで課題だと感じたことは、フォーラム期間中のバディの学生との連絡手段である。彼女は日本で繋がるデータローミングを持ちあわせていなかったため、初日に大山駅で学生と出会うまでが非常に困難であった。実際に彼女と会えたのは集合時間の1時間後であり、その間事件や事故に巻き込まれたのではないかと気も漫ろであった。よって空港までバディが迎えに行くか、空港からチャーターバスを用意するほうが得策であると考えた。

パーティー班としてはフェアウェルパーティー時の生協の利用にあたって、スライド上映やマイクの準備などの確認不足で当日迷惑をかけてしまう場面が多かった。事前に必要な機材をリストアップし、一つ一つ利用可能かどうか確認するべきであった。また、フェアウェルパーティーでは時間が決められていたため食べ残りも目立った。そこで、パーティー時間とイベント内容を考慮して、廃棄が出ないように食材の量を考慮し注文することが必要だと感じた。

国際フォーラムを通じて学んだこと

文教育学部言語文化学科 1年 佐藤 葵

1. 私は開講式・キャンパスツアー担当で、リーダーを務めさせていただきました。開講式では、式次第を考え、八ツ本さんと司会を務めました。キャンパスツアーにおいては、森田先生のお力をお借りしながら、資料館担当の方や図書館のIT・情報担当の方に直接お話をお伺いしたりメールのやり取りを行い、当日の内容や予定について打ち合わせを何度か行いました。当日は富岡さんと分担して、案内役をしました。IELTSのテストがあったために14日の自由研修はやむを得ず欠席しましたが、それ以外のすべてのイベントに参加しました。バディであるヴァッサー大学のYangさんをはじめ、世界各国からいらっしゃった留学生の方々と日本語を通じて、多様なものの見方・考え方、様々な国の文化や言語を学びました。また私は2年から英語圏コースに進むことや後期から留学するために英語を学んでいるのですが、YangさんやKimさんが英会話の練習をしてくれたりIELTSの勉強を手伝ってくれたので、Language Exchangeが出来たと思います。

2. 私は今回このようなフォーラムに参加させていただけたことを本当に光栄に思います。まず、このフォーラムを通じて私は震災について深く考え、誰かと話し合うという機会を初めて持つことが出来ました。私はそれまで4年前の大震災を思い出したり、考えることを無意識に避けていたと思います。しかし陸前高田の方々のお話、世界各国の学生による発表、森山先生や戸谷先生をはじめとした先生方のお話非常に心を打たれました。我々若い学生たちが震災のことを考え、たとえ小さいものであったとしても何かしらのアクションを起こすことの重要性を学びました。次に、今回来日された学生の他にもフォーラムのスタッフの中にも留学生が数名おられたので、実に様々な国の文化や言語について、現地の学生の視点から色々学ぶことが出来ました。私は言語を学ぶことに興味があります。今回の参加者の中には中国語を話す方が多くいらっしゃったので皆から少しずつ教えてもらい、一通り中国語で自己紹介が出来るようになりました。現在日本と中国、韓国など外交の問題が色々報じられています。しかしそれは国と国という大きな単位のコミュニケーションにおける問題であり、学生同士では友好的な交流が出来ると再認識することが出来、改めて国際交流の必要性を感じました。

3. 私は今回のフォーラムにおいて、イベントや交流を通じて現時点の自分の抱える問題を強く実感しました。それは留学生の方々が日本人であり当事者である私よりも震災に関して深く考えて、自分たちに出来ることを考えそれを実際に行動に起こしていたことです。

留学生の方々の発表を聞き、私はとても感動しましたが同時にとても自分が恥ずかしいと思いました。日本人の中には東日本大震災の被害をほとんど、もしくは全く受けていない人々が震災を自分とは無関係のものと捉えたり忘れてしまいがちとありますが、私はまして震災の被害を受けたにも関わらず、心のどこかで震災は自分とは関係がないと決めつけていました。日本人として、これからの起こりうる震災や未だ苦しむ被災者の方々のために私ができることを考え、そしてそれを実際に行動にうつさなければならないと考えました。そう簡単なことではありませんが、初めの一步として私は何事に対しても自分の意見を持つ必要があると思います。これも他の留学生とのディスカッションを通じ痛感したことです。受動的にただ人の話を聞いたり情報を得るのではなく、疑問を抱いたり自分の意見を誰かに発信することがこの課題を解決する要因の一つになると思います。

国際学生フォーラムを通して学んだこと

文教育学部言語文化学科 1年 富岡 志寿子

1. 概要

- ・担当：学外イベント、開講式

リーダーとして活動した学外イベントではコースを設定し、イベント当日はアテンドを行い参加者がスムーズに行動できるよう案内した。開講式ではキャンパスツアーで引率者として学校を紹介した。

- ・参加したイベント：学外イベント、開講式、グローバル文化学環企画、国際フォーラム、自由研修
- ・交流内容

フォーラム中で最も印象的な交流の一つはやはり毎日行われたイベントを通して各国の参加者と会話をし、文化の違いなどを学んだことであった。またバディの報告書や発表の原稿の添削をしたことも自分にとって初めてのことであったので大変印象に残っている。

2. 成果

フォーラムを通して世界には日本の震災について真剣に悩み考えてくれている学生がいるということを実感することができた。恥ずかしながら、このフォーラムに参加していなければそのような素晴らしい人々の存在に気が付いていなかっただろう。そして彼らこそがこれからの日本における重要な存在であり、これからも交流を続けていくべき存在だと強く感じた。フォーラムでは世界 10 大学からの学生が東日本大震災をテーマにプレゼンテーションをし、大学生だからこそできる行動についてアイデアを出したのだが、そこではユニークで素晴らしいアイデアがたくさん紹介された。その中には異なる空間で暮らしている留学生だからこそ思いつくことができる意見もたくさんあり私にとっては大変刺激的であった。そしてそれらの意見こそ日本人に新たな視点を植え付けるという日本の発展になくてはならない重要なものだとことを実感した。そして自身もこのフォーラムの国際交流によって視野が広まったことを確信し、それがいかに大事なものであるかということが理解できた。

3. 課題

今回、私は学外イベントにおいてリーダーを務めさせていただいたがそれを通して、企画から始めてそれを最後まで遂行することがいかに大変なことであるかが身に染みて分か

った。まずテーマに沿った目的地を探し、予約をして、実際に下見に行って我々のニーズに合っているかを検証する。もし良ければ当日スムーズに運営できるよう指示を出す。これだけでも私にとっては大変な作業であったがそれに加えさらに責任というものが伴う。改めてリーダーという存在にある人を心から尊敬した。またそれに加えて自分から行動していくことの大切さも学んだ。もし自分がリーダーという立場に立たせていただいていたかかったら、このフォーラムをただただ受け身で参加しただけになっていたと思う。積極的に参加することで参加者メンバーの意見をより敏感に察知することができ、何よりもフォーラムに参加していることの楽しさを実感することができた。今までは他人に任せておけばいいという考えを少なからず持っていた自分がいたが、それでは全く意味がなく自分も何も学べない上に、なにより他人に迷惑をかけてしまうのだということを痛感した。自分の性格上、リーダーとして積極的に行動していくことはあまり得意なことではないが、今後は私自身を成長させてくれる“積極的に行動をする”ということを課題に歩んでいきたいと考えている。

「災害対策」で繋がる世界

文教育学部言語文化学科 1年 高嶋 早紀

1. 概要

発表担当として震災をテーマにしたプレゼンテーションを行い、各国学生とディベートを通じて互いの意見を共有した。その他、池袋防災館で参加学生と共に災害シミュレーションを体験し、グローバル文化学環企画では地域研究実習Ⅱ・地域調査方法論演習に参加した本校学生と被災地で活動されているゲストスピーカーの方々からお話を伺い、被災地の現状を知ると同時に、被災者と起こり得る災害に備えて自分たちに何が出来るのかを考えた。

2. 成果

まずは、フォーラム内容について。東日本大震災から4年が経過し、風化が懸念される中、フォーラムは今一度その悲惨さと教訓について真剣に考える機会を私に与えてくれた。今回、私は発表担当として「風評被害とメディア」を取り上げた。私がこのテーマを選んだ理由は、震災当時の報道・SNSの在り方（誇張、不確かな情報の氾濫）に疑問を抱いていたからであり、そのことに対して各国学生は何を感じているのかを直接問うてみたいと思ったからだ。発表に対する反応は想像していたよりも良く、日本語より流暢であろう英語で鋭い質問を幾つも投げかけて頂き、嬉しい誤算となった。同時に、多くの学生が私と同じ疑問を抱き、どう対応するかを考えている、という事実が単純に嬉しく、各国学生が災害対策の下に歴史的・政治的しがらみを越えて議論している様子を見て、災害に強い世界、減災の可能性を感じる事が出来た。

また、グロ文企画におけるゲストスピーカーの方々のご講演からは「二度とこの様なことを繰り返して欲しくない」という想いが痛いほどに伝わってきた。ここでも、「事実だが真実ではない」報道の姿を確認すると共に、自分、そして家族が災害に遭った際にどう行動するべきかをよりリアルなものとして捉えるようになった。

参加学生との国際交流は非常に充実したものだだった。私のバディはポーランドのワルシャワ大学からの学生で、普段なかなか接することのないポーランドについて学ぶことが出来た。フォーラムの各国大学のテーマは一つとして重複することなく、今まで自分が見過ぎていた災害の被害を知ると同時に、それらに対するユニークな対策案（とそれを補足していく様々な意見・提案）が次々と現れ、改めて多様性の重要性を知る事となった。

3. 課題

二つ課題を挙げる。一つはフォーラム中の情報伝達についてだ。重要書類の期限を直前まで把握していない学生がいたこと、また、Wi-Fiが校外で自由に使用できないことを原因とした問題が大きなものではないが存在していた。Facebook等の確認、緊急時の連絡方法の周知を徹底することでより円滑に企画が進行するはずだ。特に、重要事項はその他の連絡と別の場所に掲載するようにする、等の工夫をしてはどうだろうか。

二つ目は、自身が今回築いた学生間の絆を大切にすることだ。遠く離れることで、ややもすれば薄れがちな繋がりとして、このフォーラムで生まれた絆と熱意を終わらせたくはない。主体的に活動していくためにも、連絡を取り合うよう努めたい。

国際学生フォーラムで得たものと今後の課題

文教育学部グローバル文化学環 2年 永野 友梨

1. 概要

私は自由研修を担当しました。学外イベント以外のすべてのイベントに参加し、加えて留学生の多くが泊まっていた国際学生宿舎で生活していることもあり、留学生とはイベントに限らない交流をすることができました。また、バディとして担当していた釜山外国語大学の2人とも、大学の友人を交えながら積極的に交流を行い、その他の留学生、特にチェンマイ大学の2人とは自由研修での交流やその翌日の鎌倉への旅行を通して、特別な交流をすることができたと感じています。

2. 成果

まず、フォーラムの内容としては、「災害」という1つのテーマをもとに様々な意見を聞くことができた点が大きな成果だと思います。日本にいる私たちの知らないこと、例えば海外でどのような災害が起きていて、どのような対応がなされているのかなどを知り、災害に対する世界共通の考えや国ごとに違う反応・対応について考えることができました。特に印象的だったのは、ポーランド・ワルシャワ大学の発表で、ポーランドで大規模な水害が多く起こることとそのためにNGOが積極的に活動をしていることを知ったことです。日本で暮らしていると遠くヨーロッパのニュースを耳にすることはあまりありませんが、あれほど大規模な水害がつい最近の2010年にも起こっていることを知り、非常に驚きました。また、被害者への支援のために、NGOが音楽などを通じた活動を広く行っていること、支援を表明するステッカーのデザインが馴染みやすいかわいらしいものであったことも印象深かったです。加えて、参加学生との交流という面でも同様に、普段の生活では知り得ない各国の交通事情や経済事情、例えば中国・大連では電車はほとんど使わず、バスを良く使うことや、タイでは物価が日本より格段に低く、日本で買い物がしづらいことなど、国ごとの状況を直接聞くことができたことはとても価値のあることだったと考えています。

3. 課題

課題としては、スタッフ間の連絡がうまくできていなかったことが挙げられます。この問題はスタッフ1人1人がミーティングにきちんと参加して、Facebook等の更新を確認すれば解決することではありますが、春休みに入ってからの開催のためそれぞれ帰省や就職活動と時期が重なり、情報を全体に満遍なく行き渡らせることができなかったのではないのでしょうか。この問題を解決するためには、学期中、つまり全員が集まりやすいときにし

っかりとミーティングを重ねて情報を共有することが必要だと考えられます。また、グループごとの負担の違いも課題の1つに挙げられます。それぞれのグループによって、仕事量や準備しなければならないことが多いグループと、準備があまり必要なく、仕事量も比較的少ないグループが存在しました。さらにグループの中でも、就職活動などによってほとんど活動に参加しない人、グループの兼任によって片方がおろそかになる人も存在し、負担に大きな差があるように感じられました。大きな組織として活動する際に運動量を全員同じにすることは難しいことであり、加えて今回のフォーラムでは学生主体で自由に活動をしていたことも原因の1つであると考えられますが、ある程度の活動の強制を行うことも必要だと感じました。私自身、自由研修班のリーダーとして、メンバーの協力不足で留学生の意見をしっかり拾いきれずに不完全な企画になってしまったと感じており、今後の大きな課題として今回のフォーラムでの経験を次に生かしていきたいと考えています。

フォーラムを通しての私の成長

文教育学部言語文化学科2年 松下 華菜

1. 概要

今回、私は学生代表として国際学生フォーラムに参加しました。フォーラム準備期間からの全体の統括やミーティングでの進行役、各グループリーダーとの連絡などを行いました。フォーラム期間中は全てのイベントに参加し、留学生と共に防災館や博物館の見学などを行い震災について学びました。その他、来日した学生とはフォーラム活動時間外にも交流を図り、寮の中での交流、寮生活の支援なども行いました。

2. 成果

スタッフとしてフォーラムに活動した事によって参加学生とより多くの時間を共有しました。入寮支援から寮生活の支援、集合場所までの案内など生活に関わる事全てに携わったので短期間でもより親密になることができ良かったです。また、各イベントやフォーラムの日程、内容などを他のスタッフたちと一から作り上げていく中で、どうすれば他大学の参加学生がよりフォーラムを楽しんでくれるか、どうすればより有意義な時間を共有できるかという視点を持って考える事ができました。ただの参加者ではなくフォーラムを作り上げる一員となったことによって、いつもとは違う点から学生との交流に臨めたと思います。また、このフォーラムでは異なる文化や言語をもつ地域からの学生が集ったため、自分の視野の狭さに気づく事ができました。考え方や価値観はひとそれぞれですが、自分が出した答えだけが正しいのではなく、他の人の考えも同等に大切にされなければならないと感じます。様々な文化的差異などを考慮しながらベストな方法を選ぶ事の大切さを学びました。

3. 課題

私はこの国際フォーラムを通して、アクションを起こす力の大切さを学びました。学生代表として主体的に働きかける力、積極的に海外の学生と交流する力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の考えを伝えようと働きかける力、その全てのアクションが新しい経験や感動をもたらすという事がわかりました。震災の事について沢山考え沢山話し合い充実したフォーラムとなりましたが、終わってしまった後にアクションを起こすことも重要であると感じます。このフォーラムを無駄なものにしないためにも、なにか学んだことを実行に移すことが今後の課題であると思います。また、今回のフォーラムではかけがえのない仲間に出会うことができました。国際交流もまた自分と違う言語や文化の中

で生活する人と直接会い、話をし、相手を知ろうとするアクションによって初めて得られるものだと分かりました。様々な人がいる中で時には意見が食い違う事もありますが、人々は言語や文化を超えて絆を作る事ができ、どんなに価値観や信条が違っていても、心の通じ合わせ方はみんな同じであると感じました。フォーラムを通して出会えた仲間との絆を大切にし、今後も交流を深めていきたいと思います。

「学生」の次のステージを見据えて

生活科学部人間・環境科学科3年 佐野 早希

1. 概要

私はパーティー（ウェルカム・フェアウェル）とフォーラム発表を担当しました。学外イベント（3月8日）、開講式（3月9日）、国際フォーラム①②（3月12日、13日）に参加しました。パーティーではゲームや歓談タイムを設けて短時間で仲が深められるよう工夫しました。またフォーラムでは13日のディスカッションには参加できなかったのですが発表後に留学生たちと感想を言い合う時間をとって互いに振り返りました。

2. 成果

「学生だから出来ること」というように学生にターゲットを絞ったことでより深く活発な議論が可能になったと思います。各国の学生が自分の経験をもとに考えたことを共有することでそれぞれの国のいい点と悪い点（災害に対する姿勢における）を洗い出すこと、気が付くことが出来、よりグローバルかつ多角的視点でこのテーマを考えられるようになったと思います。さらに、フォーラム以外の時間（学外イベント等）の充実が親交を深めることに繋がり、今後の関係を継続させるための重要なポイントだったと思います。また、印象的だったのが韓国の先生が「東日本大震災が発生した際、海外の国々が支援していることはちゃんと被災地の人々に伝わっているのか」と仰っていたことです。私は当然のように、支援して下さった海外の方々に日本側の感謝の気持ちは伝わっていると思っていました。しかし今回それは間違っていたことに気が付き、今まで目を向けていなかった国内外でのマスコミ・報道の実情といった点にも関心を持ちました。スタッフとして、こんなに多くの国々からの意見や思いが一堂に会する場に立ち会うことができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

3. 課題

「学生だからできること」を考えた次は「社会人だからできること」「親だからできること」「退職したからできること」というように、自分が人生のそれぞれのステージで置かれた立場によってテーマは変わっていくのでしょうか。私は今回のフォーラムでそれらはひとつひとつ区切られているのではなく、繋がるべきものだと思います。「学生」と絞ると短期的視点を持ってしまいがちですが、学生だからできるかつ次のステージにもつながる何かを考え出せばという風に思いフォーラムに臨みました。結果、各国の発表を聞いて非常に未来を見据えて提案が多く勉強になりました。ただ、提案や話し合いで終わるので

はなく、このフォーラムの時間内で実際にそれらを実現させるための一歩、もしくは半歩でも踏み出すことが出来ればより大きな収穫を得られたのではないかと思います。例えば韓国の学生が「国際学生連盟」というものを提案していて、フォーラム後、実際にSNSでグループを作り動き出していました。限りある時間の中で行動に移すまでやることは大変かもしれませんが、もし出来ればそれは素晴らしいことだと思います。また、留学生たちが帰国した後、今回のフォーラムがどのように現地の学生に伝えられ、行動が起こされているのか興味があります。今回は数か国から十数人の参加でしたが、彼らが自国に戻ってどのように伝えるかでフォーラムの意義は変わってくるのではないのでしょうか。

震災について留学生と話し合ってから分かったこと

文教育学部言語文化学科グローバル文化学環2年 邱于庭

1、概要

今回のフォーラムは今までとは違って全員で発表するのではなく、いくつかのグループに分けられそれぞれの担当がイベントを計画するという形であった。私は学外イベントの一員として務めた。このようなイベントを計画するのが初めてなので少し不安だったが、グループのメンバーと話し合う過程の中で新たな視点に気が付くことができ、また問題が生じるたびにどうやってメンバーと解決するのかといったことも学んだ。学外イベントは主に留学生たちに実際に地震が起こった瞬間を体験してもらい地震についての知識を身に付けておくことが重要だということを知ってもらうのが趣旨であった。そして震災後の今の状況と復興のために努力している人たちの経験をできる限りたくさんの人に伝えるということも学外イベントの役割である。

2、成果

今年のフォーラムの趣旨は東日本大震災から4年経ったいま、私たちになにができるのかというテーマである。フォーラムに参加する前は正直ピンとこなかった。若い世代の私たちは生まれてからいろいろなものに恵まれたおかげで今はこうして自由に楽しく生きることができる。だからこそ危機感が薄い若い世代は何か起こった時に恐怖感に支配されてしまい目の前の問題は他人に任せて解決するという無責任の行動につながるのである。3日目の講演者の佐藤氏が「地震の規模にも関わらず死亡者と被害の深刻さによって大震災という名をつけられた」という言葉が印象的であった。確かに津波が来なければこんなに大きな被害が出ないだろう。今まで日本は過去に起こった大地震の経験から様々なことに努力してきたが、このような貴重な体験は若い世代に伝えなくてはならない。なぜならまたいつか災害が起こる際に、どのような姿勢をとるのが重要になってくるからだ。そして台湾出身の私は何ができるのかというと、台湾は日本と同じ海に囲まれる島国でしかも自身が頻繁に起こる地帯なのに、津波に対する知識があまりにも少ないと感じたので、少なくとも自分の周りの友人や家族に東日本大震災の真実を伝えなければならないと考えている。

3、課題

各大学が発表したプレゼンテーションを聞き、想像以上に素晴らしく、大変感心した。大学生ができることは限られているが、各大学の留学生が新しい発想や解決方法を考えていて、私は留学生の一人として恥ずかしかった。現在日本ではまだ残された課題がたくさんあるが、留学生たちが考えた視点をもっと深く広く分析すれば復興や問題解決を実現する大きな動きにつながるかもしれない。また今回発表の中に復興の話だけではなく、震災後の精神的な面についての話もあった。これは多くの人に残された問題なのになかなか解

決できない課題であり私たちが考えるべきひとつのポイントであると考えてる。

今回のフォーラムを通して、日本を含む10大学の学生たちと一緒に震災について話し合うことができたことは奇跡だといえるだろう。東日本大震災が起きてしまったこと自体はとても残念なことだがこれから何が起こるか誰も知らないため、このように他の国の大学生と討論し、違う意見や視点を交換するのも非常に大事なことである。また、他の国は日本の経験から学んだ教訓を共有することが極めて重要であると改めて感じた。この1週間はあっという間だったが、いろいろな点で新たな発見があり、とても有意義な時間を過ごすことができただけでなく、他の国の大学生との交流も私にとってかけがえのない思い出である。

International な交流から Global なつながりを得ることができた 10 日間

文教育学部言語文化学科グローバル文化学環 3 年 井上佳苗

1. 概要

今回の国際学生フォーラムでは、8 か国 10 大学からの学生がプレゼンテーションを行うフォーラムの企画・運営を担当し、フォーラムの内容を決定したり発表スケジュールを組んだりした他、当日の司会進行などを務めた。更に、10 日間に及ぶプログラム全体において、震災に関する展示会の見学や防災体験に参加したり、陸前高田を訪れた本学実習生の報告や被災地で活動する方々のスピーチを聞いたりして、震災に関する知見を広めることができた。参加学生との交流においては、主にバディを務めたボン大学の学生の発表準備をサポートしたり、海外の学生と食事に行ったり東京を散策したりして交流を深めた。

2. 成果

このフォーラムにスタッフとして参加して得られたことは、大きく分けて 2 つある。一つは、東日本大震災に関して様々な視点からの意見を知ることができたこと、そしてもう一つは海外の学生とのつながりを強めることができたことである。

東日本大震災から 4 年という月日が経ち、直接にその被害を受けていない私にとって、震災はどこか遠い過去のものになってしまっていたように思う。しかし、今回のフォーラムに参加して、東日本大震災の際の震度を防災館で体験し恐怖を感じたことから始まり、実際に被災して復興に向けて活動しているらっしゃる實吉さんや佐藤さん、陸前高田に移住し活動する三井さん、陸前高田の現状を見てきた実習生、海外から参加した学生など、様々な背景を持つ人の震災に対する思いを聞いて、震災が誰にとっても無関係ではないものとして深く心に刻まれた。震災に限らずあらゆる災害は、いつか自分の身に降りかかる可能性がある。その災害が大きな被害になることを防ぐには、これまでの災害から教訓を学び、災害が起きたときに自分が取るべき行動を日頃から考える必要がある。また、自分が被災しなくても、被災した人々の思いを聞いたり発信したりすることを通して、災害の記憶を留めなければならない。日頃から国内外のつながりを大切にすることで、いざというときに助け合うことができる。このように、これまで幾度となく繰り返されてきた災害の苦しみを無駄にしないために、自分がすべきことが多々あることを実感することができた。

また、10 日間という短い期間であったが、海外の学生と将来に渡って交流を続けられるような関係を築くことができた。もし、フォーラムのスタッフとして参加していなければ、会話を交わすだけで終わっていたかもしれない。バディとして日本に来る前後のことを相談し合ったり、議論を交わしたり、一緒にでかけたり、共通の趣味を見つけたりすること

を通して、ただ「海外の学生と交流する」のではなく、国や文化の違いに捉われない友情を育むことができた。

3. 課題

今回のプログラムは、震災について濃く学ぶことのできる充実したものであった。しかし、連絡が全体に伝わっていなかったり、自分の担当しないイベントのスケジュールが把握できていなかったりと、全体を見ながら準備を進めることができなかった。海外の学生との交流のみならず、日本人学生間でも連携を強める必要があると感じた。

海外の学生との交流に関しては、異文化を持つ学生に対する接し方という点では不足はなかった。課題としては、知識を身につけることだと考える。海外の学生を理解するために相手の国の基本的な歴史や文化を知っておく必要があるのはもちろん、日本の魅力を発信したり、自国の立場に立って議論したりするために、日本に関する知識がもっと必要だと感じた。

第4回国際学生フォーラムを終えて

文教育学部 人間社会科学科(心理)2年 三上 奈緒子

1. 概要

私はフォーラムの運営とタイのチェンマイ大学の学生のバディを担当した。参加したイベントは学外イベント、グローバル文化学環企画、フォーラム、自由研修など多岐に及んだ。フォーラムの運営は当日の司会・運営や誕生日サプライズパーティーの設定だけでなく、どのようなフォーラムにしたいかについて事前に熟考した。その結果、討論の場を設けるなどした。また各大学の発表前の導入として、どのように伝えるのか悩みつつも「私たちはあのとき」という題目のお茶大生の震災経験の報告を担当した。バディの活動としては、フォーラムの企画以外では東京の泉岳寺や鎌倉を訪れ、バディとの充実した時間を過ごすことができた。

2. 成果

フォーラムの内容は「震災復興を超えたグローバルな対話と協力」ということで、震災についてだけではなく災害全般やインフラ、原子力などについても学び、議論する場となった。良かった点は発表の題目として、震災の周辺領域(例えば PTSD や震災時に便利なアプリ開発の話など)についても話題に上がったため、その後の議論の視野が広がった点である。とても斬新な数々の話題を共有できたことは、わざわざ留学生を集めてフォーラムを開く意義を肯定してくれると思う。また、陸前高田市に住む方々のお話を実際にお聞きできたのはフォーラムに奥行きを持たせてくれると感じた。正直に申し上げると、このフォーラム以前は3.11や震災復興活動について取り立てて関心が少なく、このような人々のお話を聞く機会がなかったため、自分がいかに3.11に関して無知であったかを思い知った。

参加学生との国際交流の感想と今回スタッフとして参加した感想に関しては一言でいうと、非常に充実した時間を過ごせたということだ。私がこのフォーラムに参加したのはただ海外からの留学生と関わりたいという単純な理由からであった。バディと過ごすことのできる限られた時間を大切に、段々と親密な関係が築けていると実感できたのはこれまでの国際交流活動では感じられなかった感覚であった。

3. 課題

お茶の水女子大学は様々な国際交流活動を提供している。また小規模な大学であるからこそ国際に関わる専攻でない学生でもこのようなフォーラムに携われる機会が多々ある。このようなフォーラムが存在するだけでもありがたいことであるが、フォーラムの今後の

継続・発展のために2つ提案を行う。

まずはテーマの明文化である。今回のフォーラムの副題は震災復興を超えたグローバルな対話と協力であるが、やや抽象的に感じた。そのため、1つの具体的なトピックを決め(例えば、大学生が集まるフォーラムであるため災害後に大学生がすべきこと、など)、その1つのトピックに関する様々な国からの見方を共有できればより有意義になると考える。もちろん今回の各大学の発表は様々な趣向が凝らしておりとても興味深かったが、具体的な副題がある方が発表しやすく、より討論が活発に行われると感じている。

もう一つは新しいことへの挑戦である。このようなフォーラムを第五回、第六回と続けていくためにはマンネリ化を防ぐために新たなことを取り入れ革新を図らなければならない。2013年度のフォーラムではヴァッサー大学の研修に参加した学生の発表やモナシユ大学とのテレビ会議があったようだが、今回、グローバル文化学環企画を合同で行ったのもとても良い取り組みだと思う。今後も国際学生フォーラムがより一層発展するよう、願っている。

東日本大震災から生じる絆

文教育学部言語文化学科1年 北野奏子

1. 概要

今回の国際フォーラムで私は、学生の私たちが震災に対して今何が出来るかを英語で発表しました。もちろん学生らがボランティアなどに参加し実際に被災地に赴くことが最も好ましいかたちではありますが、その中でも私たちは、「誰もが出来る取組み」ということに重きをおき、正しい情報を自分自身で取捨選択するメディアリテラシーについて紹介しました。

国際フォーラムの期間中は震災に関するだけでなく、それぞれの国の文化や政治事情にも触れることが出来たと思います。実際私は大連理工大学のバディであったのですが、自分ではなかなか知る機会がない中国における若者の流行や、中国語特有の表現の意味（旧正月時のお祝いの言葉など）を教えてもらいました。現在国際情勢はあまり良い状態とは言えませんが、このような個人的な交流から生じる絆やつながりが国家間の関係性を少しでも改善させる可能性を秘めているように実感した1週間でした。

2. 成果

この国際フォーラムで最も印象的であったのがやはり各大学の発表でした。当初私は、10もの大学が発表するのであれば内容がかぶってしまうことを危惧しておりましたが、結果として全ての大学がそれぞれの独自の考えや視点を紹介し、多くのアイデアが次々と挙げられたことに非常に驚きました。そしてこの一連の発表を見て、私はグローバル化の真の姿を垣間見ることが出来たと思います。もちろん言語というものは異文化交流における最大のツールといえるため、それを習得することは大変大きなメリットがあるでしょう。しかしながら世界の一体化が進んでいる以上、これから私たちは文化や言語といった障害を乗り越えて、より多くの議論をしていくことが何よりも重要となってくるように感じました。そしてこれを考慮すると、今回のフォーラムで「震災」というテーマについて多くの意見を交わすことが出来たことは、グローバル化の時代を生きる私たちにとって一つの大きな成果になったことには間違いありません。

また多くの自由研修が予定に含まれていたことも大変良かった点として挙げられます。それは、留学生と共に行動することは個人個人の内面まで深く知るきっかけになったと同時に、当たり前ですが数々の思い出を作ることが出来たからです。教室内で真剣に意見を交わすことももちろん大切ではありますが、このように外に出て多くの経験を積むことはテーマを熟考するうえで大変大きな役割を担っているように感じました。

3. 課題

国際フォーラムの発表を担当して今回痛感したのが、自分自身が日本人でありながら東日本大震災に正面から向き合っていなかったという事実です。被災地の状況や被災者の苦しみはニュースなどでもよく耳にしますが、無意識のうちに心の中ではどこか遠くの話であるようにとらえていたように思います。しかし、このフォーラムで自分が発表を担当し主体的に情報を集めたこと、さらには世界各国から集まった留学生がこんなにも日本の震災のことを考えてくれ、今学生が出来る取組みに対して一生懸命知恵を絞っている姿を見て感銘を受けたと同時に、今までの自分の震災に対する姿勢を大いに反省しました。グローバル化とはいうものの、やはり自分の国のことを知らなければ話しになりません。今後はもっと日本という国に目を向けて、辛いことなどからも目をそらさずに向き合っていきたいと思います。

国際学生フォーラム 2015 に参加して

文教育学部人文科学科 2年 斉藤 美沙季

1. 概要

私は、今回 12 日・13 日のフォーラムを担当した。発表や最後のディスカッションの進行などについてアイデアを出し合い、実際に当日の司会進行などを行った。また、14 日は浅草寺や原宿を留学生と観光し、15 日はバディと鎌倉に行き、楽しい時間を過ごした。

2. 成果

今回の私の目標は、短い時間のなかでも、できるだけ密度が濃く学びの多い時間を参加者に提供することだった。今まで私が経験してきた国際交流イベントは、時間が限られていることもあり、なかなかテーマについて深く考えることや初対面の参加者同士が仲を深めることが難しいように感じていた。そのため、そうした状況を改善すべく今回のフォーラムでは、発表の後に様々な大学の学生が混ざり合っ、フォーラムのテーマに即して話し合う場を設けることにした。時間的な制約や当日の予期せぬトラブルなどがあつたものの、ディスカッションの場では、理想のリーダー像や災害時に国際的な支援体制をどのように築くかなどのトピックに対して、多様なアイデアが交わされ、話し合いによってアイデアをさらによくしていこうという姿勢を見ることができた。お互いの考えの違いに、ときには驚きつつも真剣に語り合う参加者の姿を見ることができたのは、フォーラム担当者として何よりの喜びであった。様々な背景を持つ学生が集まるこのフォーラムの場だからこそ実現できたことだと考えている。

また、自由研修では、14 日 15 日とも非常に楽しい時間を過ごした。14 日は、これまであまり交流ができていなかった学生と接することができ、寺社見学やカラオケなどを通して短い時間の中でもすぐに打ち解けることができた。特に新宿御苑の芝生で、留学生とともに自己の将来の在り方や自分の性格について語り合ったのはとても印象深かった。普段なかなか話せない内容であり、しかも自分とはかなり異なる意見を同世代の学生から聞いたことは、自分の考えを深めるうえでよい刺激となった。15 日は、バディと鎌倉へ出かけた。彼女は日本の寺社に興味を持っており、熱心に見学していたので、そうした姿を隣で見られただけでも一緒に鎌倉に来てよかったと思えた。歩くことが大好きな彼女と鎌倉の山や海を横目に、自分の国のこと、いま興味を持っていることなどを話しながら歩いたのも、本当に楽しかった。フォーラムの最終日にこのような楽しくあたたかい時間を過ごせたことに感謝し、これからも私の大切な思い出として心に留めていたい。

3. 課題

イベントは参加する以上に裏方で支える方の仕事量が多いことをスタッフとして関わってよく実感した。今回見つかった新たな課題は、そうした裏方の仕事量を全体でうまく分担し、スタッフ自身もバディをはじめ留学生との交流の時間を十分に取れるようにすることだ。多くのスタッフが複数の役割を抱えている以上、仕方ない面もあるのだが、事前準備などの段階から想像力を働かせて、念入りな準備を行い、当日はできるだけフォーラムの行われている会場に全員がいられるように調整したい。具体的な方法はまだ思い浮かないが、次にこのようなイベントに参加する際には今回の課題を改善し、さらによいものにしたい。

最後に、私にとってこの春一番の思い出は、この国際学生フォーラムである。この素晴らしい機会を与えてくださった先生方、早い段階から一緒にやってきたスタッフのみなさん、参加してくださった留学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

フォーラムの終わりが 私の始まり

文教育学部言語文化学科3年 鈴木 香緒里

1. 概要

聴講という形での参加でしたが、ヴァッサー大学の Lewis Kim さんのバディ、パーティー担当、寮内のサポートメンバー（大山寮に住んでいるため）として活動させていただきました。

[担当]

・バディ

発表のパワーポイント、原稿、報告書、アンケートの添削・アドバイス

・パーティー班

開講式・閉講式の準備、運営

・寮内サポート

大山寮入退寮のサポート、交流

[参加したイベント]

・開講式 (3/9)

学校(自己)紹介→昼食(立食形式)→絵伝言ゲーム (運営側として)

・グローバル文化学環企画 (3/10) 午後の講演

・フォーラム 各大学発表・閉講式 (3/13)

私自身発表はしなかったものの、今まではどこか遠いところのことかのように感じてしまっていた震災のこと、直接働きかけることが出来ていなかった被災地のこと、4年経った今の状況を、陸前高田実習に参加した学生の体験談、震災当時現地にいた實吉さん・佐藤さんのありのままのお話、東京から広田に移り住み、SETの代表として活動なさっている三井さんの報告を通して、初めて真剣に考えることが出来ました。留学生の発表やお茶大生との意見交換も私に大きなきっかけを与えてくれました。

2. 成果

初めてフォーラムに参加しましたが、なぜ今まで参加していなかったのかと悔やむほど学ぶことが多く、考えさせられました。4年経った今でも、震災の爪痕は多く残っていること。その一方で復興へと着実に進んでいること。多くの人が自分の幸せ、家族の幸せ、周りのみんなの幸せ、遠くの人々の幸せを願ってそれぞれがそれぞれの出来ることをして支え合っていること。それは日本の中に留まらず、世界を巻き込んでいること。

今までは自然に入ってくるメディアからの情報だけを得て自分なりに解釈していたこと

が、実は少しずれていた、違っていたという気づきがたくさんあったフォーラムでした。震災当時はもちろん、それから今に至るまでの世界の人々の反応や行動を具体的に知ることが出来たのは大きな成果だと思います。バディとして、スタッフとして、世界 10 大学からの優秀な学生たちと震災のことに加え様々なことについて語り合えたのは貴重な経験でした。この繋がりを大切に、これからも交流を続けていきたいです。

3. 課題

自分自身も大きな揺れを体験したにもかかわらず、東日本大震災をどこか人ごとのように感じてしまっていたのだと今改めて反省しています。同じ大学生でも、自分に出来ることは何かを考え、行動にうつし、復興に貢献している学生がたくさんいました。特に留学生が母国の友人や家族に呼びかけて募金活動をしていたという話を聞いたときは、嬉しい反面、自分がとても恥ずかしくなりました。このフォーラムは私に大きなきっかけを与えてくれたと感じています。今までなぜ何もしなかったのか、ではなく、これから何が出来るだろう、何をしたら役に立てるだろう、と自分から積極的に情報収集をし、動き出そうと思います。

今後のフォーラムに向けて

文教育学部言語文化学科 2年 佐藤文香

1. 概要

私はグロ文企画の担当だった。グロ文発表者に「なるべく易しい表現で、ゆっくりしゃべる」ことなどを呼びかけたり、難しい単語の英訳を作ったりと、より多くの学生に内容を理解してもらえるように努力した。イベントとしては、8日の学外イベント以外、全て参加した。自由研修ではバディの希望に合わせ、14日に歌舞伎座・浅草寺・皇居へ、15日に鎌倉へ行った。

2. 成果

バディとほぼ毎日会い、積極的に交流したことによって、最終的にとても強い心のつながりができたと実感している。ただ参加するだけではなく、それぞれ担当のバディを付けることによって責任も感じるし、より密な交流ができるので良かったと思う。国際交流などをする上でありがちな「広く浅く」な関わりではなく、「狭く深い」交流を実現することができたのが今回のフォーラムの一番の成果だと思う。

3. 課題

3-1 全体に関して

フォーラムに参加したことによって、海外の学生と密な交流ができたことは良かったと思う。ただ、このフォーラムに参加した学生がもう一度深く考え直すべきなのは「このフォーラムのテーマは何か」「何をするためにこのフォーラムに参加したのか」ということである。「震災復興を超えた対話と協働」とはどういうことを言っているのか、私はこのテーマにそもそも疑問を抱いている。お茶大生を含め、このフォーラムに参加している学生はこのテーマをどのように解釈しているのか知りたい。そもそもこのフォーラムに参加する学生がどのような理由でこのフォーラムに参加したのか、どれほど東日本大震災について知っているのか不確かだった。このフォーラムが、わざわざ世界中の大学から学生が集まり、かつ東日本大震災が起こった日本で行われることの意義を考え直すべきである。

3-2 グロ文企画に関して

以下にグロ文企画の改善案を挙げる。

改善案①地域研究実習Ⅱの報告会を無くし、東日本大震災の被害状況、陸前高田がどういった地域で、どれほどの被害があったのか、などの基本情報の発表に変える

地域研究実習の報告会は実習の成果を発表するもので、陸前高田や東日本大震災に関する前

提知識が無い海外の学生にとっては難しい内容である。それに加え、今回はゲストスピーカーとして実習で何度もお世話になっている陸前高田の皆さんがいらっしやっていた。実習参加者にとって今回の場合は、普段お世話になっているお礼として、実習の成果を陸前高田の皆さんに示す場だった。オーディエンスに陸前高田からのゲストと海外の学生という両方がいる状態で発表を行うのは難しい。それよりも、実習参加者によって、もっと陸前高田の基本情報の説明、東日本大震災についての発表などをした方がいいのではないかと思う。ゲストスピーカーによる講演も、実習参加者向けに別に実施したほうがいいのではないか。

改善案②フォーラムでの発表を陸前高田の方々に聞いていただく

今回のフォーラムに参加して、やはり国にとって震災というものの捉え方が全く異なっていることがわかった。国にとって異なるユニークなアイデアこそ、陸前高田の方々にシェアすべきなのだと思う。ディスカッションの中で出た様々なアイデアも、とても興味深いものであったし、そこに陸前高田の方々が加わればまた変わるのではないかと思う。

以上を踏まえると、私が考える今後のフォーラムの望ましい形は以下のようなものである。

○来日前：事前課題として東日本大震災に関する資料をデータで送り、基本情報を理解してもらう

○開講式もしくはその次の日：このフォーラムの意義・テーマ確認、東日本大震災の基礎情報の説明

○グロ文企画：実習参加者による東日本大震災、特に陸前高田に関する発表

（被害状況やこの4年間の復興に向けた動きなど、より基本的なもの）

○フォーラム：学生発表&ディスカッション

（陸前高田の方々に学生達のアイデアを聞いて頂き、意見をもらう）

このフォーラムは海外の学生と東日本大震災に関して共に考えることを通して交流する、ということにその特徴があると思うが、東日本大震災を国際交流のためのだしにはしてほしくない。中途半端に行くくらいならやらないほうがいいし、やるならば全員がテーマをきちんと認識した上で実施したい。だからこそこのフォーラムのテーマやその意義をしっかりと設定しなければならない。今回来た学生達は、全体的に日本語能力が非常に高く、グロ文企画の難しい内容も理解できていた人が多かったが、より多くの学生に理解してもらうためにも、日本語能力及びフォーラム参加の志望理由（ただ日本に来たいから、というのではなく、震災に関して考えたいから、など）をしっかりと確認するべきだ。より良いフォーラムのために、もう一度その趣旨を考え直すべきだと思う。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	河 純鳳	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	釜山外国語大学		在籍課程・身分 Current Course	学部
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 年 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	大韓民国・釜山	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
東日本大震災について、もう一度考えるようになりました。日本語を勉強している私にとって、自分の好きな国、またそこで暮らす好きな人々が苦しんでいる姿を直接感じることができたと思うので、現在の日本の状況を韓国の人々に伝え、忘れないようにしなければならぬと思いました。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
以前、日本に留学していた時に何度か地震を経験したことはありましたが、東日本大震災のような大きな地震の揺れを体験したことはありませんでした。池袋の防災館で経験したマグニチュード9.0の揺れは今まで感じたことのない恐怖を感じるほどの恐ろしさでした。地震の怖さを改めて感じられる体験でした。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
世界のさまざまな国々の学生が集まって、震災の復興を超えたグローバルな対話と協力をテーマにして発表・ディスカッションするプログラムでしたが、とても新鮮でした。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
私は、将来、日本で就職したいと考えています。その中で、今回のプログラムは、自分自身、日本のことについてもう一度考えるいい機会となりました。 韓国に帰国しても、今回のプログラムで得た様々な教訓を生かして勉学に励みたいと思います。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
今回のプログラムの企画者である、森山新先生とお茶の水女子大学の学生や関係者のみなさん、本プログラムの参加者のみなさん、そして留学の支援をしてくださったJASSOに感謝のことばを伝えたいです。 本当にありがとうございました。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	尹思源	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	大連理工大學		在籍課程・身分 Current Course	学部
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	中国・大連	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
自分が作った発表を通して、以前全然知らなかった自然災害についての知識は少しずつ分かるようになってきた。そして他の国の発表を見て、アイデアや発想を分かち合うことも大事だと感じられ、そこで、思想や情報の交換など、新しいアイデアを生み出すことができ、様々な問題も解決することもできる。今までメディアしか知られていない真実は、実際に東大震災を体験したゲストの話と間違っているところがちょこちょこあって、私はそんな話を聞いてから、帰国しても本当の真実を伝えるようにもっと頑張りたいと思います。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
東京での生活や体験などとても貴重な経験でした。特にお茶の水女子大学の学生との付き合いことは色々なものを勉強し、フォーラムで世界各国の大学生たちと一緒に災害の起こった時に大学生としての私たちは何かできるかについて意見やアイデアを交換しました。今回のフォーラムは8ヶ国の大学生と一緒にディスカッションができて、本当に奇跡ようなことしか考えないと感じられました。この一週間は短いですが、とても有意義な時間を過ごしました。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
お茶の水女子大学は留学生を安心させるため、色々なサポートが配ってくれて、とても良かったと思います。特に学外イベントで印象が残ったのは池袋の防災館でした。中国では防災に関する意識が持っていないので、災害が起こった時に、常に多くの亡くなったり、大怪我する人もたくさんいました。私は防災館で学んだものをもっと多くの人に知ってもらいたいと実感しました。これからも留学を促進してほしいと願っています。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
今回東大震災について色々勉強したので、今後日本の防災に関する知識をもっと研究したいと思いました。そして、各国の発表を聞いて、自分自身の日本語をもっと勉強しなければならないと実感し、様々斬新なアイデアを話し合い、とても良い刺激を受けました。もし今回機会がありましたら、また日本に留学したいと思います。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
国際フォーラムに参加することを通し、違う国の学生と交流し、日本の大震災のことが分かってきました。また、私は自然災害に対してなにかできるのか、想像以上多くて、みんなの意見やアイデアを聞き、改めて大震災について色々考えてみました。今回のフォーラムはお茶の水女子大学と他の国からの学生さんの発表を聞いてから、自分の国と異なる文化を分かるようになり、自分の考え方と異なる考え方や自分が思いつかないアイデアを改めて考えさせました。災害が発生する時に、あるいは日常生活に困っている時に、人々の助け合うこと、理解し合うということは人類の希望だと考えました。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	THEPBUNDIT CHIDCHANOK	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	チェンマイ大学		在籍課程・身分 Current Course	修士課程・1年
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 2 月 ~ 平成 27 年 2 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	タイ王国・チェンマイ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
私はタイ北部にあるチェンマイ県から来ました。チェンマイ県で時々起こる自然災害は日本と同じく地震です。最初このフォーラムに参加したいと思った一番の理由はフォーラムから得た様々な知識や経験を自分の国のためにもっと役に立てたいと思ったからです。そして、今回のフォーラムにおいて、様々な国の学生が作ったパワーポイントのおかげで災害復興や以前は知らなかったことを勉強しました。このフォーラムで、もしタイで災害が起こった時に災害に対応することができると思います。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
私が日本に来たのは今回が初めてです。私の日本語は上手くないので、日本へ行く前には日本人と会話ができるかどうかちょっと心配でしたが、日本人とだんだん仲良くなって、だんだん話すのが楽しみになって友達になりました。日本の生活にも慣れました。寒さをしのいだり、電車に乗ることもできるようになりました。またぜひ、日本へ戻りたいです。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
このフォーラムは世界各地で様々な災害が起きた場合を想定して、そのとき大学生として何をすべきかを求めました。世界の10大学が集まったので、世界各地からの役に立つ情報をもらうことができました。もしフォーラムに集まった10大学の学生が自分の国に帰ったら、今回学んだことを自分の国の災害に対応できると思います。そして、自分の国だけでなく、有益な情報を世界各地に届けることができると思います。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
この度、災害についてのことだけでなく、日本の文化や日本の習慣なども勉強することができました。例えば、複雑な日本の地下鉄を利用することや日本で災害が起こった場合、どう対応するかなどです。このような経験を通して、もっと日本が好きになりました。また将来は機会があれば日本に留学したいと思っています。帰国してからすぐはこのフォーラムで勉強したことをつかって自分の国の災害対策をサポートしたいと思っています。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
私が日本に来たのは初めてなので、日本に来る前は自分の日本語がちょっと心配でしたが、日本で生活をして日本人と話すうちに、だんだんと話せるようになって何の問題もありませんでした。とてもうれしいです。日本に滞在中は私のバディは私をわざわざホテルまで迎えに来てくれたり、泉岳寺など色々な所に連れて行ってってくれたりしました。本当にありがとうございました。このようなことは私にとって非常に良い思い出になりました。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	CHAIMONGKON RATTANAPORN	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	チェンマイ大学		在籍課程・身分 Current Course	学部・3年
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	タイ王国・チェンマイ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
五年前に、私の出身地であるメーテンでは洪水が発生し、私は被害者となりました。それで、被害者の気持ちがわかるようになりました。そのため、大学生としてタイに役に立つことをしたいと思っていました。自分の考えて考えることだけでは足りないと思っていたため、今回のフォーラムで各国の大学生の皆さんが発表した情報から、新たなことを多く学びました。今後も考え続けたい、という思いが強くなりました。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
今回、私は初めて日本に来たので、とても嬉しく、興奮していました。それと同時に、日本の生活や、交通について全く知らなかったため、不安がありました。しかし、日本人のサポートのおかげで、色々なことが分かるようになりました。そのほかにも、日本には、防災館や国立博物館など、学生たちにとって役に立つものが多くあることがわかりました。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
このフォーラムを通じて、私は多くの経験をし、新たな知識を得ました。例えば防災館で、地震が起きたときに必要な行動を学習しました。また、専門家の方から講演を聞くことができました。色々な国の大学の発表を通して、自分とは違う、面白い考えを発見することができました。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
タイでは地震もほとんど起こらず、台風も来ないので、災害への警戒心が無く、その対策を怠っています。そのため、タイの南部に来た津波やバンコクで発生した洪水などの大きな災害が起こったときにタイ人は状況が理解できず、惨害になってしまいました。タイで惨害が起こるのをもう見たくないの、今回のフォーラムで得られた防災のための知識をタイで生かしたいと思います。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
このフォーラムで、私はグローバルな対話と協力を通して震災復興について知識を得ただけではなく、多くの幸せな思いをしました。例えば、日本で日常生活が経験できただけでなく、フォーラムに参加した外国人の友達ができました。先生方とパディのみなさん、色々なお話をしてくれて、本当にありがとうございました。母国で、日本の知識から学んだことをタイの現在に生かしたいと思います。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	Ni Yun	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	Smith College		在籍課程・身分 Current Course	学部・4年
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	アメリカ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
最初の日池袋防災館で初めて地震を体験し、大きなショックを受けた。たった10秒間でも、私は地震の怖さを十分に実感した。東日本大震災の影響を受けた人々の気持ちもよく理解できるようになった。そして七ヶ国から来た留学生達のプレゼンテーションを聞き、みんなで日本のために様々な素晴らしい意見や感想を共有できたことが、本当に良かった。自分たちが大学生としてできる事は、実際にたくさんあると思う。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
日本ではコンビニが24時間開き、電車やバスもあって、非常に生活しやすいと思った。東京は少し寒いが、空気はいつも新鮮で、歩きながら時々梅の花も見ることが本当に楽しかった。学生寮に住んでいれば、入浴や洗濯も無料でできるので、とても便利だった。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
とても素晴らしいプログラムだと思う。この国際フォーラムに参加してから、私の震災についての理解はより深まった。朝、寮を出発する時に寮母さんたちに挨拶をしたり、毎日電車で通ったり、学校で新しい事を学んだことで、この一週間私は日本の生活を経験しただけではなく、日本の社会や文化も次第に分かるようになった。その他、陸前高田の発表について、報告会は難しい単語が多く、少々分かりにくかった。もっと詳しい単語リストを作ってくれば、留学生の皆はより活発に討論が出来たと思う。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
今回フォーラムに参加して、各国のメディアの情報には違いがあるということを学んだ。情報が違うということが原因で、震災に対しての人々の反応も国によって違う。私は帰国したら、放射線がどのような影響をもたらすのかについて、もっと調べたいと思う。学生の発表から、福島原子力発電所の爆発が起こった後、福島の人々がタクシーにも乗れなかったという話に強い関心を持った。そのような、福島に対しての偏見を直したいと思う。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
今回のフォーラムで、日本人のバディがいつも手伝ってくれたことに、本当に心から感謝の気持ちを申し上げたい。私が日本に来るのは二回目だった。分からないことがたくさんあったが、日本人のバディの未空ちゃんはいつもそばにいてくれたので、わあしはとても安心だった。そして、このフォーラムのおかげでバディと非常に親しい友人関係を築くことができ、とても嬉しかった。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	楊 亦隆 (Yilong Yang)	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	ヴァッサー大学 (Vassar College)		在籍課程・身分 Current Course	3
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 年 月 ~ 平成 年 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region		

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
1、池袋の防災館で、激しい地震の揺れを実感し、地震の時に必要な行動と普段から地震に備えることの重要性がわかりました。さらに、火事のシミュレーションを通して、消火器の使い方や、火事からどうやって自分の命を守るかなどを、学びました。2、グローバル文化学環企画で、東日本大震災の被災地の現状についての講演を聞きました。その中、未だに楽観を許さない状況もあるという事実がわかりました。講演や全体討論を通して、復興へのいろいろな取り組みについて学び、私たちに何ができるかについても考えてきました。3、東日本大震災による津波から、貴重な文化財はどのように守られたか、その処理方法や現状などについて学びました。4、フォーラムで、世界8ヶ国10大学の学生たちの発表を聞き、各国で災害の状況や、災害と向き合って学生としてできることなどが、共有されました。新しい視点が多く、大変勉強になりました。私的に、災害によるPTSDについて紹介させていただきました。なお、全体討論の中、ユニークな考えが多く出ており、例として、リーダーシップ、メディアリテラシーや物事への批判的見方の重要性などが挙げられます。5、全てのプログラムで使用される言語は基本的に日本語であり、大きな挑戦で、独特で貴重な経験になりました。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
1、東京都では、人が非常に多く、大変混雑なところもありますが、秩序が整然と保たれています。2、食べ物がおいしいです。3、礼儀が非常に重視されているようです。4、若い・新しい文化も盛んである一方、古い・伝統的な文化もよく保存されています。5、目の不自由な方が独自に出かけることが少なくないようです。それは感銘を受けています。(中国で目の不自由な方のための道路さえ確保できていません。)
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
1、地震体験と防災訓練。池袋の防災館を訪ね、そこで震災関連のビデオを視聴し、地震と火事のシミュレーションを通して防災知識を学びました。2、お茶の水女子大学の資料館で、大学の歴史について学びました。3、グローバル文化学環企画。陸前高田で実習してきたお茶大学生たちとゲストスピーカーたちの講演を通して、東日本大震災の被災地の状況を知り、質疑応答と全体討論も行われました。4、国立博物館で、東日本大震災による津波の後、文化財の再生などについての展示会に行きました。その後、代々木公園で黙禱を行いました。5、国際学生フォーラム。世界10大学の学生が災害をテーマとしたプレゼンテーションをそれぞれ発表しました。質疑応答やグループ討論も行いました。6、自由研修。東京のアトラクションを巡り、東京をもっと知りました。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
今の専攻はアジア研究ですが、今後、東アジア(具体的に日中韓)の人々は、災害による心理的なストレスやトラウマとどう接しているのかについて、勉強していきたいと思えます。もちろん、日本語能力の上達を狙いとして、自分なりの努力もしていきたいと思えます。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
素敵なフォーラムを参加させてくださり、有意義で大切な時間を一緒に過ごしていただきまして、誠にありがとうございました！

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	Aneta Birnerová	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	カレル大学		在籍課程・身分 Current Course	学部・3年
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 26 年 3 月 ~ 平成 26 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	チェコ・プラハ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
震災復興も国によって違っているかもしれませんが。例えば、最近の日本の震災復興とハイチの震災復興を比較してみてください。そして時々本当の情報を探することは非常に難しいことです。この国際のフォーラムのおかげで地震復興について必要な情報が全部分かる機会がありました。すなわち、困っている人に支援する団体、地震ということは本当になんですか、どうやって支援することができますか、という質問を答える情報です。それで困っている人に支援する団体のボランティアとして人々を助けることができます。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
チェコは、ヨーロッパの中央「中央」にある小さな国です。だから、アジアの文化や料理や普通の趣味などがよくわかりません。お茶の水の大学生たちに日本のことを教わりました。そして、わたしにとって一番大切だったことは日本語ではなして日本語が少し上手になったことです。東京で様々な経験をできて、本当にありがたいです。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
世の中には大地震の被害にあった人がたくさんいます。残念ですが、現代の情勢を見ると、その問題は大きくなって来たということが分かります。族をなくした人たちもいます。皆さんは困難な状況からはいあがろうと心死です。どんな時でも絶対にあせらない人に感心します。「現代の人々は地震の際にどうすればいいのかあまりわかりません」と言う人が国際フォーラムの中でチェコ人とポーランド人にいました。それらの国では地震があまり起こりませんから。でもフォーラムで皆さんは地震のときにどうしたらいいがよく教えられました。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
現代では、国際的なコミュニケーションは増えて来て、必要なことだと思います。最近、物事はもっと速くなったかも知れません。それに世界中を旅行したい人が増えていくでしょう。国々へ行って大切な情報を集めて帰りたいと言う夢がしばしば聞こえます。私も新聞記者としてその夢を叶えたいと考えています。国際部の新聞記者として、ほかの世界の問題を注意し、次の自然の大災害が起きたらインターネットで新聞でどう被害者を支援したらいいか書くことが今できるようになったと思います。国際フォーラムのおかげです。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
様々な国の人と知り合う機会は貴重ですから、そのフォーラムにおいて、多くの人に会って震災復興についてちゃんと話したと思います。そして、日本に初めて行くことができた機会は本当にありがたいことです。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	Agnieszka Beata Krainska	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	ワルシャワ大学		在籍課程・身分 Current Course	学部
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	ポーランド・ワルシャワ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
このフォーラムのおかげで、毎日新しいことを学びました。ポーランドは災害があまりなくて、ほとんど安全なのに、私にとって地震のシュミレータはものすごく印象的でした。今まで私は一つも災害を直接経験したことがなかったので、今回地震がどれほど大きかったか分かって、東日本大震災というのが何の意味を持っているかをはっきりと理解できました。お茶の水女子大学のフォーラムは一生に一度の体験だったと思います。他の国の人の経験について聞いた時、勉強になって、ポーランドに帰ったら、学んできたことをポーランド人にぜひ教えたいと思います。今回のフォーラムのおかげで、災害が起こったら、何をしたらいいか、どのように助けることができるかということなどが分かりました。フォーラムが国際的な架け橋になったと思います。今年のようなフォーラムがたくさんあったら、人がもっとたくさん知恵を持ち、被害者の数を少なくできると思います。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
私が日本に滞在するのは二回目ですが、今年のフォーラムのおかげで新しく面白い経験ができました。日本の首都を訪問したので、初めてしたこと、見たことなどが多かったです。いつも見られない場所を見学する機会があっただけで、私は宗教に興味があるので、靖国神社や浅草寺や明治神宮などを見学できたのは信じられないほどの経験でした。日本学科の学生なので、日本の伝統文化とモダン文化を直接経験するのはすごく大事だと思います。日本の大学生の日常生活がどのようなものか分かりました。大学の講演に参加したり、勉強したり、面白くて興味深いところに行ったりすることができて嬉しかったです。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
プログラムはとても興味深かったです。ポーランドでは、このような講演を聞く機会がないです。学生が作ってくれた3.11についての発表は考えさせられました。東日本大震災が起こった時、ポーランドのテレビなどでいろいろな放送があっただけでも、その地震の四年後に、日本がどのように震災の問題を解決するのか、そして、被害者は今どのように生きているのかについて、初めて聞きました。その他、これは当然なことかもしれませんが、この地震は祭りにも影響を与えたということにびっくりしました。今まで祭りの問題について考えたことがありませんでした。その後、三人のゲストのスピーチは強く印象に残りました。津波について、知識はありましたが、實吉さんのスピーチのおかげで被害の大きさ、激しさをもっとはっきり理解できたと思います。私にとって一番のポジティブで希望のあるメッセージを持った発表は、三井さんの発表です。私はチャリティ団体がどのような変化を起こせるのかを日常に考えたことがなかったので、三井さんのスピーチを聞いた後で、私も何かをしたいと思って、SET団体や桜LINEやポーランドのチャリティ団体についてもっと知りたいと思いました。三人のゲストの発表がとても心に残っていて、三つのスピーチに感動しました。Peace on Earthというイベントに参加した時、みなと結束を感じました。海外の学生の発表を聞いた後で、世界のいろいろな地域で、多彩な災害が起こっていて、ポーランドからどのくらい遠くても、その災害がどこかで起こって、いろいろな問題を起こしています。いつもテレビなどで、どこかで災害が起こったと聞いても、これは私の地域ではほとんど安全なので、実際のことではないように見えていました。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
私の専門は、哲学と宗教です。神道と仏教に興味を持っています。災害と宗教は強い関係があると思います。世界中の宗教は、自然に対するの尊敬と恐怖感から起こったものではないでしょうか。今回のフォーラムは、色々勉強になりました。まず、東日本大震災について詳しく聞いて、その後、海外の学生の経験について聞いて、はじめに宗教を作った人のことをもっと理解できました。お茶の水女子大学の学生が作ってくれたプレゼンテーションのおかげで、今回地震が宗教に関係がある問題を起こしたと聞いて、びっくりしました。山車が流されて、人手も資金も足りなくなって、陸前高田市の七夕祭りは様々な問題に直面しています。この地方の伝統が消失しないように協力することが大事だと思いました。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
今回のフォーラムは大変勉強になりました。色々なことに感謝します。豊かなプログラムのおかげで、日本で新しいことを学んで、日本の文化がもっと分かるようになりました。私たちのような学生をこのプログラムにさそっていただいて、心から感謝します。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	パウリナ・マグジク	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	ワルシャワ大学		在籍課程・身分 Current Course	学部生
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	ポーランド・ワルシャワ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
私は初めて日本にきました。ポーランドにいる間、いろいろな日本についての本を読みましたが、やっぱり本当に日本に来て、日本を実感するのは一番楽しいです。日本はポーランドと大きく異なっています。ポーランドでは、このような実習はありません。その上、ポーランドでは、災害がめったに起こらないから、とくに個人的に災害への準備はしません。けれども、日本にいる間にすばらしい防災の準備を実感しました。例えば、池袋防災館で地震やその他の災害を体験しました。そういう訓練は、自分の命を助けるために本当に大事だと思います。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
私は初めて日本にきたので、ほぼ全部が、私にとって新しい経験です。おいしい食べ物を初めとして、まだ三月なのに、早咲き桜をみました。とても美しく素敵でした。また、日本にいる間、様々な国の人々と会いました。世界10大学の国際学生フォーラムは本当に素晴らしいです。さらに、私にとって一番大事な点は、自分の日本語能力をあげることができました。この10日間で、日本語に囲まれて、とても良い経験でした。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
3月7日~3月16日の世界10大学国際学生フォーラムは、本当にすばらしいプログラムです。私は参加できてとてもうれしいです。私の中で重要な経験は、東京の名物を観光することでしたが、一番大切な知識は、講義とほかの学生のプレゼンテーションの時に得られました。防災は誰にとっても本当に重要なことです。ポーランドは安全な国ですが、どこに住んでいても、いつ誰かが危険な目に遭うかもしれません。そのため、皆の幸せを得るために協力するのは重要だと思います。3月10日に、東日本大震災とその後の色々な出来事についての発表を聞きました。最初はお茶の水女子大学の生徒の発表を聞いて、それから、貴吉さんと佐藤一男さんと三井俊介さんの発表を聞いて感動しました。また、一日中様々な発表と意見を聞いて、色々と勉強になりました。今は防災についてもっと知りたいです。そのため、国に戻っても、自分の知識を広げたいと考えています。また、フォーラムで学んだことは、ほかの学生のプレゼンテーションから聞いた意見です。今回のようなコンソーシアムプログラムに参加して、様々な人の意見を知って、自分の知識を広げることができました。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
災害は世界中でおこります。そのとき、ほかの方法がないなら、人々は祈ることしかできません。私の研究分野は、日本の宗教です。私は特に、どのように日本の宗教つまり神道が生まれたのか、なぜ人は祈るのか、どのように祈りは人を助けるのかということに興味を持っています。今回のフォーラムは私にとって、そして私の勉強にとって、本当に重要なことです。なぜなら、災害がおこったとき、人間はよく祈ります。私は、宗教が生まれたのは人を災いから守るためだったかもしれないと考えています。今回のフォーラムで皆の意見を聞くと、やっぱり私たちは災害がおこらないように祈る方がいいと思うようになりました。私たちが自分の力を使って安全な世界を作るのは大事です。祈りと人間の力を合わせれば、安全な世界を作ることができるようになると思います。私は今回のフォーラムで色々と勉強になりました。ここで得られた知識を自分の研究に利用したいと思います。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
私は世界10大学国際学生フォーラムに参加できて本当によかったです。今回日本にいる間、色々と勉強になりました。得られた知識をぜひ自分の研究に利用したいです。また、私はボランティアの活動について様々な情報を得たので、ぜひ3月10日に発表があった三井俊介さんが働いているSETや、ほかのポーランドで活動しているNGOに参加したいと思うようになりました。

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	Gabriela Siemienkowska	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	ワルシャワ大学		在籍課程・身分 Current Course	
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	ポーランド・ワルシャワ	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)	
<p>この国際学生フォーラムはとても良い、貴重な体験だと思います。震災や津波の時に何をしなければならないのか、また災害に備えるために何が役にたつのかなどについて勉強をしました。ポーランドに帰って、大学生や家族などにこの新しい知識、学んだことを伝えて、実践します。フォーラムのおかげで、災害の危険性を周知する必要があると分かりました。加えて、ボランティアの必要性もです。そのため、今、本当に感謝しています。</p>	
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)	
<p>東京に行く機会が与えられるとは夢にも思いませんでした。日本の首都はとても興味深い都市なので、色々なところを観光したいと思いました。本国の授業で勉強した明治神宮や浅草寺などを見るチャンスは深い感動を与えてくれました。その上、日本人の日常生活を見たり、お茶の水女子大学の学生と会話して、日本語の腕を上げることが出来ました。その他、友達も作れて、本当に嬉しいです。日本についての知識を広げたり、和食を食べることが出来てとても有難いです。</p>	
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)	
<p>国際学生フォーラムのため、日本に滞在して様々な事を聞き、視野が広がりました。例えば、池袋防災館で消火器の使い方を学んだり、地震やその他の災害の疑似体験をしました。その際、こういった災害学習の必要性を強く感じました。あまり災害に見舞われないポーランドでも、災害が起こった際、何をすべきか、逆に何をしたらいけないのかを知る必要があると思いました。3月10日のお茶の水女子大学の学生の発表と實吉義正さん、佐藤一男さんと三井俊介さんの講演のおかげで、今私たちは東日本大震災の現状を知って、何ができるのかを考え始めました。防災対策に関する知識はこれから役立つと思います。また、国立博物館で、東日本大震災による大津波からの復興過程についての展示を見て、事態の深刻さを理解しました。更に、他の外国人学生の発表を聞き、皆さんと一緒に自分の経験について話して、防災について意見を交換することはとても意義のあるものでした。</p>	
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)	
<p>国際学生フォーラムを通して、日本語力が向上しました。ここで得た知識をポーランドに持って帰り、更に日本語の勉強に励みたいと思います。それだけでなく、自分の研究のための参考文献を購入出来たので、卒業研究がより充実したものになると感じています。</p>	
その他(自由記述) / Other contents (free description)	
<p>私にとって、今回のフォーラムで様々な国から来た学生と英語ではなく、日本語でとても重要なことについて話すことが出来たのは、本当に素晴らしく、興味深いことでした。若者が一堂に集まり、災害について真剣に話し合い、共に明るい将来のために努力していく感動は決して忘れません。また、優しく、寛容な方々が世界中にいることが分かって、将来に対する不安が和らぎ、希望が持てるようになりました。</p>	

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	カロリン・ベックス	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	ボン大学		在籍課程・身分 Current Course	修士課程
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 26 年 3 月 ~ 平成 26 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	ドイツ・ボン	

○報告内容 / Contents of the report

<p>学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)</p> <p>東日本大震災から4年間が経ちましたが、復興はまだ完成されたわけではありません。被災地では、まだ問題点があることや復興のために継続的な努力が必要だということがよく分かりました。さらに、どのような災害でも大事なことは、他の国と意見や情報を交換したり、お互いの力になることだと思います。</p>
<p>日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)</p> <p>このプログラムを通して、震災復興について様々なところを見に行ったり、意見も交換したりしました。それに、日本人のバディからのサポートもありましたので、心配せずに参加することができました。</p>
<p>受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)</p> <p>第4回世界10大学合同国際学生フォーラムでは、「震災復興を超えたグローバル対話と協力」というテーマに関して、様々な発表、議論、報告、イベントなどが行われます。今回、池袋の震災館では地震体験も受けたり、被災地の文化について学んだり、東日本大震災の経験者の発表の時には、復興のために必要な活動や問題点について聞いたり、他の国の震災状態についても色々学んだりしました。つまり、プログラムの中心は、グローバルな立場からグローバルな課題解決を見つけることでした。</p>
<p>今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)</p> <p>私は6年間、日本語、日本学を勉強しています。将来も絶対に日本と関係がある仕事をしたいし、また日本に来る可能性が高いです。そのため、国際フォーラムのようなイベントで、発表したり、意見を交換したりすることも、私の進路のために非常に役に立つと思います。ただいま翻訳者の仕事を狙っているので、他のフォーラムやイベントを通訳するためにも、いい参考でした。</p>
<p>その他(自由記述) / Other contents (free description)</p> <p>東日本大震災のようなことが2度と起こらないように、過去に起こった災害を忘れないで進むべきだと思います。知識を広めることは、大学生としても簡単にできることです。このフォーラムに参加してから、グローバルな世界のためにもっと頑張ろうというやる気もできました。</p>

支給対象者修了報告書(短期受入れ学生用)
Completion Report of Student Exchange Support Program

標記について、下記のとおり報告します。/ My report is as follows.

記

○基本情報 / Basic information

短期受入れ学生氏名 Name	Stephan, Alexandra シュテ ファン・アレクサンドラ	受入れ大学等名 Name of the Japanese Higher Education Institution	お茶の水女子大学	
在籍大学等名 Your University/College	Universität Bonn/ ボン大学		在籍課程・身分 Current Course	修士課程
奨学金支給期間 Duration of JASSO Scholarship	平成 27 年 3 月 ~ 平成 27 年 3 月 Year Month Year Month	国・地域名 Country/Region	ドイツ・ボン	

○報告内容 / Contents of the report

学習成果について(自由記述) / Learning outcomes (free description)
今回はお茶の水女子大学の第4回国際学生フォーラムに参加して、東日本大震災・大津波や世界各地で起こる災害について学びました。主な講義の内容は、被災地の陸前高田や震災後の暮らし、復興についてなどでした。学生やゲストスピーカーがプレゼンテーションしてくれたので、東日本大震災を様々な側面から考えることができました。特に、災害が起きたときに学生である自分に何ができるかを考え、スピーチを聞きながら自分の努力はまだ足りないということを改めて実感しました。これからもっと頑張っていきたいと思います。
日本での経験について(自由記述) / Experiences in Japan (free description)
お茶の水女子大学の学生たちは、学内外でのイベントを用意してくれました。おかげで、震災の話で辛く感じることもありましたが、面白くて楽しい思い出もできました。私が日本に来たのはフォーラムのテーマに興味があったからなので、東日本大震災に関わるイベントは特に興味深かったです。人生は楽しいことばかりではないからこそ、人間はお互いの力にならなければならないと思います。お茶の水女子大学には、私のように日本が大好きで、もっと日本の力になりたい留学生が様々な国から集まって、とても貴重な経験になりました。この素晴らしい出会いのおかげで、みなと日本の文化・歴史・言語を共有して仲良くなれました。
受入れプログラムの内容について(自由記述) / Program contents (free description)
お茶の水女子大学は、十日間のプログラムを用意してくれました。そのプログラムに学内と学外イベントが含まれていましたが、ほとんどが東日本大震災と関係があるイベントでした。学生の発表やゲストスピーカーのスピーチを聞いたり、博物館に行ったり、防災館で体験したり、様々な経験ができました。それだけでなく、東京の観光もできましたし、日本の面白い文化も味わうことができました。
今後の進路への影響について(自由記述) / Influence of the career stage (free description)
ここで学んだことはこれからも大学の勉強に役立つと思います。しかし、今回のフォーラムではっきりわかったことは、私はできる限りこれからもっと自分の大好きな国のために頑張りたいということです。日本の文化を通して世界の様々な国の人々がつながることができます。そのため、災害が起こるかどうかにかかわらず、私はもっと日本の役に立ちたいと思い、この考えを活かせる仕事を選びたいと思います。
その他(自由記述) / Other contents (free description)
このフォーラムに参加できて本当によかったです。素晴らしい機会を与えてくださって、本当にありがとうございます。